

## 報告事項 地域災害拠点病院の指定について

平成31年3月15日に開催した青森県救急・災害医療対策協議会において、八戸赤十字病院の地域災害拠点病院指定について提案したところ承認されたことから、地域災害拠点病院に指定した。

## (指定理由)

八戸赤十字病院から地域災害拠点病院の指定の申出があり、国の通知に基づく指定要件等に基づき、適合状況を確認したところ要件を満たしており、また、本県の災害医療体制の更なる充実に資するものと認められたことから、同院を指定することが適当と判断したものである。

災害時における医療体制の充実強化について (平成24年3月21日付け厚生労働省医政局長通知)

## 【地域災害拠点病院】

- ・ 多発外傷、挫滅症候群、広範囲熱傷等の災害時に多発する重篤救急患者の救命医療を行うための高度の診療機能を有し、
- ・ 被災地からのとりあえずの重症傷病者の受入れ機能を有するとともに、
- ・ D M A T 等の受入機能、
- ・ 傷病者等の受入れ及び搬出を行う広域搬送への対応機能、
- ・ D M A T の派遣機能、
- ・ 地域の医療機関への応急用資器材の貸出し機能を有する もの

## 【基幹災害拠点病院】

- ・ 地域災害拠点病院の機能を更に強化し、
- ・ 災害医療に関して都道府県の中心的な役割を果たす もの

# 八戸赤十字病院の地域災害拠点病院の指定について

## 現状・課題

### <現 状>

- 青森県地震・津波被害想定調査結果によると、想定した3つの地震（太平洋側海溝型、日本海側海溝型、内陸直下型）のうち、太平洋側海溝型地震による人的被害が最大と見込まれ、特に、三八地域は死者19,000人、負傷者10,000人と甚大な被害が見込まれる。
- 東日本大震災以降、地震、台風等による大規模災害が多数発生し、特に今年度は、大阪府北部地震、H30年7月豪雨、北海道胆振東部地震等により多くの死傷者を出している。

### <課 題>

- 太平洋側海溝型地震が発生した場合、八戸市立市民病院が中心的役割を果たすものの、想定死傷者数を考慮した場合、当院のみで対応することが困難となる恐れがある。
- 近年の大規模災害の発生状況を踏まえ、早期の体制構築が必要。

## 対 応

### 地域災害拠点病院指定の必要性

- 2つの地域災害拠点病院が連携・分担して、地域の中心的役割を果たすことにより、**患者の集中を防ぎ、救命率の向上**が期待される。
- 複数の地域災害拠点病院を指定することによって、一方の病院が被災した場合であっても、**被災を免れた病院が地域災害拠点病院としての役割を担う**ことができる。
- 1医療圏における複数の地域災害拠点病院の指定については、多くの県で事例がある。

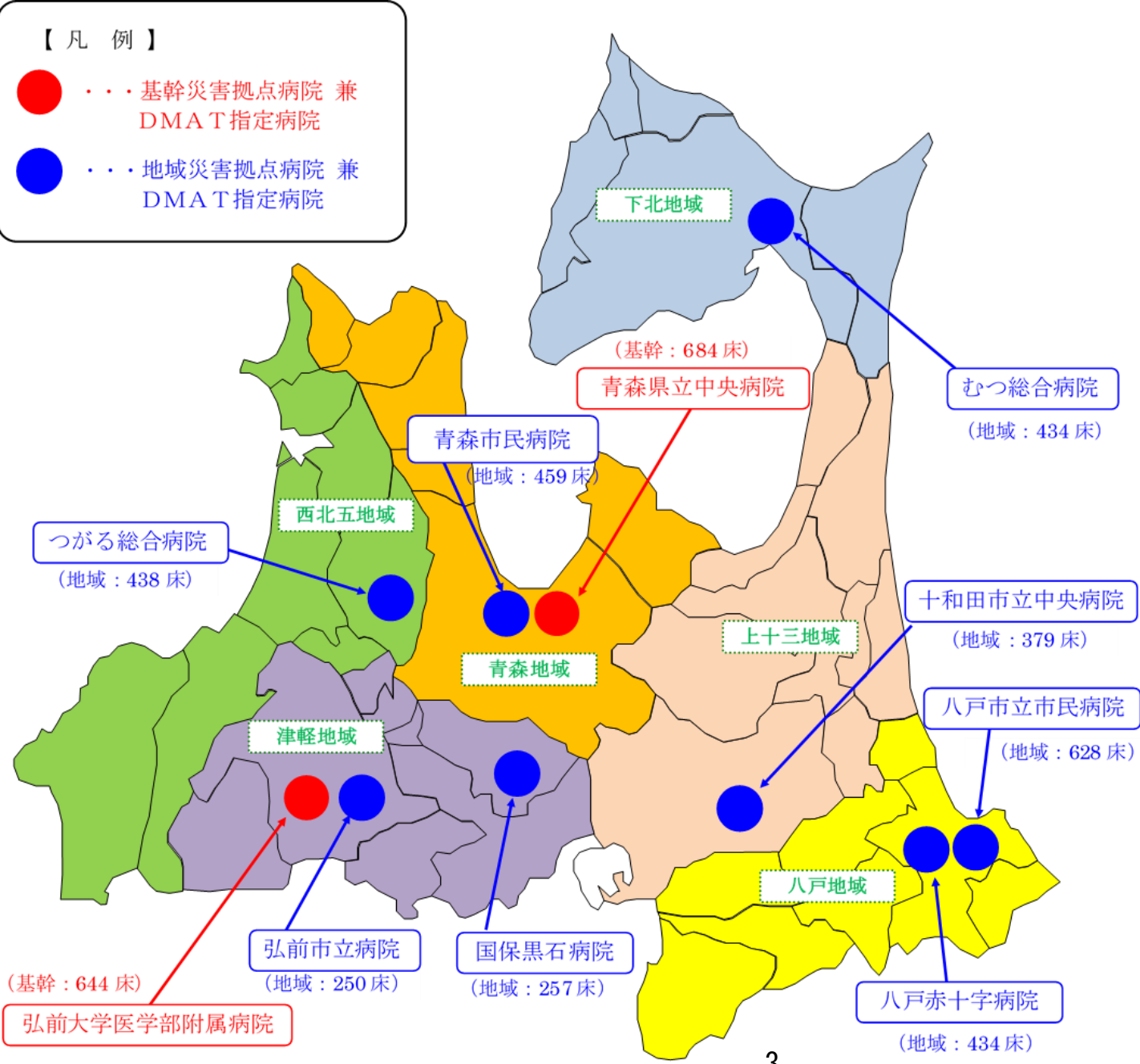
### 八戸赤十字病院の選定

- 八戸赤十字病院は、赤十字病院として国内災害救護の役割を担うことから、従前から災害救護に必要となる設備や人的体制を構築し、災害拠点病院に求められる**救命医療を行うための高度な診療機能や、重症傷病者の受入機能等を有している**。
- 青森DMAT指定病院としてDMAT4チームを保有し、**DMAT派遣に対応することができる**。
- 東日本大震災や北海道胆振東部地震等では、救護班を編成し、救護活動に携わっていることから、実災害を経験し、**災害医療に精通したスタッフが多い**。
- 既に地域災害拠点病院の指定要件を全て満たしており、新たに体制構築のための整備を行う必要がない。
- 災害発生時には、日赤のネットワークを活用した情報収集や、医療支援等が期待できる。

## 八戸赤十字病院を地域災害拠点病院に指定

本県の災害時医療提供体制の充実・強化

災害拠点病院の指定状況



種別	医療圏	病院	病床数
地域	青森	青森市民病院	459床
	津軽	弘前市立病院	250床
		黒石病院	257床
	八戸	八戸市立市民病院	628床
		八戸赤十字病院	434床
	西北五	つがる総合病院	438床
	上十三	十和田市立中央病院	379床
基幹	下北	むつ総合病院	434床
	—	青森県立中央病院	684床
	—	弘大医学部附属病院	644床